

むくげ合宿 2025

一釜山・陜川・晋州・昌原への旅一

(『むくげ通信』330号、2025.5.25より) 飛田雄一

4月25日(金)午後6時、釜山東横インロビー集合の合宿。みんな無事集まった。今回の集合場所はたやすい方だ。これまでの最難関は洪城

(2018年、忠清南道)のホテルだった。鉄道は通っていない。でも無事?集まった。

今回の参加者は、むくげ会員は、堀内稔、大和泰彦、飛田雄一、深田晃二、川那辺康一、山根俊郎の6人。会友は、深田律子、宋連玉、張秀熙*、赤峰美鈴、岡内克江、橋本豊美、秋吉京子、秋吉正一、高賛侑、栗原桂子、長谷川くみこ、村山俊夫*の12名。(＊は韓国から参加)

以前の合宿は会員だけの参加で、宴会の最後には、「前年の反省と今年の抱負」を語り合った。通信にその記録が残っているが、「〇〇をまとめて今年中に本にする」というのもけっこうあった。だた打率は極端に低い。

韓国で合宿するようになったのは2010年(濟州島)から。以降、浦項(2011年)、全州(2012年)、釜山慶州(2013年)、木浦(2014年)、郡山(2015年)、江華島(2016年)、九里(2017年)、洪城(2018年)、麗水(2019年)。いつのころからか、全州あたりからか「抱負」を語り合うこともなくなった。なぜか、分からない。



私は、濟州航空で閑空から金海空港へ。深田夫妻と同じ便だった。金海の入管は長蛇の列。うんざりしていたら、韓国語で「そこの3人こちらへ」と優待窓口に案内してくれた。他の旅行者は、ポカンとしていた。その後、若い男性スタッフが大きな声(日本語)で「お年寄りの3人!こちらへ」と。われわれは、恥ずかしうれし、だった。白髪の効用だった。金海空港でWi-Fi「도시락/弁当」を借りた。飛び込み、5日間1515円。



釜山初日の懇親会／おいしかった

初日、釜山でパーティ。旧知の林オングュさん(釜山)の日本語の生徒イジンフェさんの案内だ。

林さんは娘さん(林徳仁さん、2013年、東大留学中にゲストディ参加)のいる名古屋に出かけていたのだ。おいしい焼肉屋、焼酎をバンバン飲んだのはイジンフェさん、日本側からは深田晃二さんと栗原桂子さん。私は、最近とみに弱くなった。いいことか?

その後、カラオケに行こうというイジンフェさんの申し出を、帰路の釜山でやろうとかわして?、それぞれのホテルへ。

翌26日(土)、朝9時、東横インロビーに集合した。今回の旅行は、釜山在住の朴修鏡さんがバス・運転手の手配、訪問先との折衝もしてくださいました。日韓市民運動交流のための仕事をされている。2021年、むくげゲストディにもZOOMで参加してくださった。テーマは、「岡まさはると永井隆の比較・対照」。山根の手伝っている神戸港非核関連の日韓市民交流の通訳もしてくださっている。

出発のとき、佐野通夫さんがホテルに。朝鮮学校支援活動の関係で釜山にきているという。エルの交換をした。

チャーターバスで、一路、陜川へ。運転してくれたのはバス民主労働組合のコンヘンシクさん。バスの名前は「幸せバス」。上手な運転だった。

陜川は「韓国のヒロシマ」と言われている。広島へ移住あるいは強制連行された多くの人が被爆した。釜山から約2時間半のコースだ。初めて会うメンバーも多く、バスの中では、自己紹介などが続いた。



金亨律さんのプレート／記念写真

昼前に金亨律さん(1970-2005)の墓地を訪問。金さんは、被爆2世の市民活動家だ。金さんについては、青柳純一編訳『被ばく者差別をこえて生きる』(三一書房、2014.4)に詳しい。本の帶には、「韓国で生まれた金亨律の母親は広島で被爆していた。『いのちは続いていかなければならない』—彼が生涯をかけて訴えた、原爆被害者たちの生命権・生存権とは何か」とある。



陜川ビビンバ／自撮りが上手になった



昼食は、ビビンバ。大盛の 10 種の野菜とご飯。各々に野菜とご飯をビビンバしておいしくいただいた。韓国らしい食事だった。今回の参加費、初日のパーティは、割り勘（3万ウォン）。陜川～釜山までは実費精算。仮に 15 万ウォンを徴収した（晋州のホテルは各自支払い）。バス代、運転手ガイド等謝礼、食事代、おみやげ代、入場料にあてられる。今回の円ウォン交換利率は、1 万円が 97,200 ウォン。ほぼ 1:10 で計算しやすい。会員以外の参加者は別途 5,000 円も徴収。むくげネットワークへのギャランティー？だ。



午後、陜川原爆資料館を訪問。韓国被爆者協会陜川支部長沈鎮泰さんが出迎えてくれた。2 歳のときに広島で被爆した沈さんは、すてきなおじいさんだ。歴史を記録することの大切さを強調されていたのが印象的だ。会館 2 階の資料室でも、政府や韓国被爆者協会本部がしていない証言記録を精力的に集めていると、そのファイルをみせてくれた。



右沈鎮泰さん、左は朴修鏡さん／みなで話を聞きました



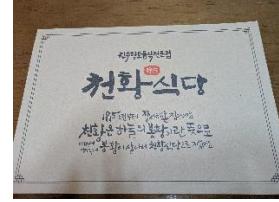
資料館／資料館全景、堀内さんが行く



慰靈施設の前／金亨律さんの碑もありました



福祉会館／創業 1915 年の食堂



敷地内の慰靈施設にも行った。そこで默祷。隣にある福祉会館は、風邪がはやっているというので外から見学した。80 名が生活しているという。

その後、晋州へ向かった。朝鮮時代からの身分差別（白丁など）撤廃を求める衡平運動発祥の地だ。夕食は、「論介（加藤清正関連の有名人）市場」の、創業 1915 年の食堂。おいしかった。更に村山さんらと二次会。そして、あすの晋州フィールドワークにそなえて早く寝た？ ホテルは、ゴールデンチューリップ・ナムガン。いいホテルだった。



朝、私は散歩。酔って寝たので早く目が覚めた。ビールのせいか加齢のせいか、わからない。川沿いを歩いた。この川「南江」は洛東江の支流。川那辺さんが地図で調べてくれた。洛東江には、釜山からはるかソウルまで約 500 キロの自転車専用道路ができている。いつか走破したいものだ。李明博大統領の時代に作られた。批判の多い李大統領だが、この自転車専用道路、ソウル中心部の高速道路を壊しての清渓川の復活、この 2 つは、いいことだ。



南江自転車道／陽が登ります



骨董品屋がありました／これは？？

南河にもサイクリング専用道路が整備されてい

る。レンタサイクルもあったが、借り方が分からないのであきらめた。芸術的な日の出の写真？も撮った。晋州城の回りも歩いた。おもしろい骨董品屋さんもあった。

朝食ののち、衡平運動モニュメントへ。申振均さんが出迎えてくれた。もと高校の教頭さんで、現在、衡平運動記念事業会の理事長だ。モニュメントは川沿いのすてきな場所にある。そこで記念写真。モニュメントの意味を申さんからうかがった。今回、陜川の沈さんといい、晋州の申さんといい、ほんとにしてきた。意志の強い市民活動家だ。話し方もすてき、説得力があった。ファンになった。天気も快晴。気持ちがよかったです。



申振均さん、左通訳の山根さん／衡平運動モニュメント



姜相鎬さんの墓／工事中の建物は未来の資料館？

バスで移動して姜相鎬さんの墓地を訪問した。姜さんは、衡平運動のほんとうに先駆者だが、近年まで忘れられていたという。今回の合宿、充実した「資料集」の作成は堀内さんと山根さん。感謝。陜川、晋州の詳細はその資料集および本号の参加者のレポートを参照ください。



昼食は、ホテル近くのレストラン。途中に改装工事中のビルがあった。深夜と朝、何回も通ったところだ。元薬局で、衡平運動に深いかかわりがある。申振均さんは、2階に衡平運動の資料館をつくる計画があるという。

昼食の冷麺も美味。今回の食事はぜんぶ美味。



昌原のモニュメント／昼食の冷麺です



午後、昌原へ。新しい「徵用工」のモニュメントがあるという。朴修鏡さんの民主労組の仲間がつくったものだ。バスが到着するとメンバー5人が出迎えてくれた。徵用工、「慰安婦」、子どもを象徴する3人の、すてきなモニュメントだ。花をささげた。私も少し挨拶した。海苔のおみやげまでいただいた。

釜山、陜川、晋州、昌原の位置関係は次の地図のとおりだ。図形加工のスキルがないので、がんばって探してほしい。釜山・陜川に2時間半かかったのも、うなづける。



昌原から釜山に戻った。途中渋滞もあったが最後の目的地・釜山市民公園に午後4時ごろについた。大きな自然豊かな公園だ。家族連れが思い思いにテントを張っている。むかしの韓国の観光地は、おじさんおばさんが焼酎を飲み踊るのが定番だった。が、そんな雰囲気ではなかった。親子でなかよくのんびりと、の感じだった。

この公園、解放後は、米軍のハヤリア基地。それ以前は日本軍の基地だった。NHKドキュメンタリーで飛田イチオシは「趙文相の遺書」(1991.8.15) だがそこにも出てくる。捕虜を虐待したとしてシンガポール・チャンギ刑務所で1947年2月、絞首刑にされた趙文相のドキュメンタリーだ。享年26歳。日本人上官の命令を捕虜に伝える通訳だったため捕虜の憎悪を人一倍集めた、とされる。



「趙文相」／釜山・公園歴史館

彼の裁判記録はオーストラリア公文書館に残っていた。その尋問記録が本当に生々しい。罪を認めない彼に、キリスト教徒であることをとらえて、「軍の命令と聖書の教えのどちらが大切か」と迫った。そして罪を認めさせたのである。

さらに、彼が死の直前まで書いていた日記を仲間が持ち出した。それが残され公開されている。「友よ、弟よ、己の智恵で己の思想を持たれよ。いま自分は、自分の死を前にして自分のもののはとんどないのにあきれている。」(趙文相の日記は、<http://kbcq.web.fc2.com/shogen/shogen1.html>で読むことができる。)

捕虜虐待の罪で戦犯に問われたのは、5,700人。そのうち朝鮮人148人、台湾人173人。死刑判決を受けたのは、984人(執行されたのは920人)。そのうち朝鮮人23人、台湾人21人。台湾、朝鮮は植民地にされた。その上日本軍の軍人、軍属となって戦犯に問われた人々の無念はいかほどかと思う。趙文相は、徴兵制度が朝鮮にも施行されるのを前に軍属に応じたのだ。英語のできた彼は、通訳として軍属となった。その彼が、南方に送られるまえに訓練を受けたのがこの基地。そのことがドキュメンタリーで紹介されている。ドキュメンタリーを何回も見ている私は、「ハヤリア基地」の名前が耳に残っている。

市民公園では、公園歴史館を参観した。そこには、趙文相のコーナーもあった。

夕方、東横イン釜山駅に到着した。やはり全員で懇親会。チャガルチ市場の南浦参鶏湯。おいしかった。このチャガルチ市場、以前のむくげ合宿で、にがい経験がある。友人に紹介された店だったが、生きのいい魚を言われるがままに注文した。計算時に一人7,000円。びっくりした。今回そんなことはなかった。よかった。

今回の仮払いの参加費は15万ウォン。楽勝で残るはずだった。それを陝川被爆者協会にカンパしようと思った。が、残らなかった。飲み過ぎたようだ。正確には、多く飲んだ人がいた。

懇親会後、初日に釜山の店を紹介してくれたイジンフェさんと合流。山根、大和、飛田はカラオケに行った。大きな部屋で歌い放題。私も最近ひとりカラオケで鍛えている? 二次会(三次会?)のさそいを断ってホテルに戻った。

今回の旅行、私は、29日まで釜山に滞在した。28日には、ひとりで海雲台をぶらぶら。久しぶりだ。ずいぶんきれいになっている。水族館にもいった。たいしたことはなかった。ランチは、テンジャンチゲ。これもたいしたことはなかった。夜、再び山根さんと合流した。山根さんが以前釜山の飲み屋で友だちとなったというおじさん。チャガルチのホルモン屋で待ち合わせた。おいしかった。煙もうもうの地元の人ばかりの店だ。そこでおごってもらって、カラオケへ。だいぶ歌った。おじさんは日本の歌も上手だ。



海雲台のライオン／快晴です

韓国では、ふつう、割り勘はしない。オールorナッシングだ。ホルモンは御馳走になり、カラオケはこちらが払った。韓国での懇親会は、出口のレジでもたもたするのはNG。こちらが支払うときは、終了前に支払う。レジでもたもたすると韓国側のプライドを傷つけることになる。日本側で割り勘するときも、それは後です。ちょっと長く、韓国での懇親会費支払い事情を説明してしまった。

最後の日、金海空港に早い目に行った。実は私、旅行のプロ?として、とんでもないミスをしていたのだ。初日、関空へ行くと予約がないと言われた。そんなことはないとコピーを見せると「前日」予約になっているという。よく見ると、そうだ。困った。私が行かなくては、合宿がやばい? チケットを買うことにした。「ネットで購入したほうが安いですよ」と言われたが時間がない。その場で支払った。34,000円だった。往復24,000円のチケットを買っていたのに……。しかたない。

さらに「済州航空直接ではなくて他の会社からネットで購入した場合は、復路も取り消されます」とのこと。旅行のあいだ、ネットで電話でいろいろ調べた。予約が残っていることは確認できたが不安が残る。それで?、早い目に金海空港にいったのだ。OKだった。安心した。金海空港で、ビールを飲んだ。楽しい合宿だった。